

平成29年9月定例会 議事録

- ・日 時：平成29年9月7日（木）19：00～20：50
- ・場 所：石川県NPO活動支援センター「あいむ」ロビー
- ・出席者：五十嵐、池田、大竹、黍野、木村、今度、蓮井、村中、山崎、吉田
（計7名）
- ・欠席：なし
- ・進行・記録：大竹

《議題》

1. 金沢市都心軸交通環境整備検討委員会について
2. 新しい交通システムを巡る動向

《内容》

議題1 金沢市都心軸交通環境整備検討委員会について

（1）吉田氏からの報告

- ・8月24日（木）に第1回委員会があり、委員長に金沢大学高山教授、副委員長に中山教授が選任された。
- ・新交通導入を意識したと思われる都心軸の渋滞改善が目的。部会として、行政や交通関係者中心のハード部門と、各種市民団体等でのソフト部門が立ち上がった。
- ・9月23日（土・祝）に、カーフリーデーとしてイベントとバス専用レーンを拡大する交通実験が行われる。10月14日（土）に名古屋大学の加藤博和教授を講師に招く市民向けフォーラムが開催される。
- ・アンケートや交通量調査も行う。
- ・新幹線開業後、外国人観光客が増え、路線バスに遅延が生じるとの報告があった。
- ・市民意識を育て公共交通の分担率をあげていきたいとのこと。
- ・委員長は最後に「私自身は吉田委員のようにマイカーをやめ、公共交通に乗り換えるなどとても考えられない」と皮肉を言われた。委員長自身がこのような意識の持ち主ではこれからの委員会はどうなるのかと思った。
- ・中山副委員長は高山教授と師弟関係にある。借りてきた猫のようだったのでこの人も頼りになりそうにないと感じた。

（2）会員からの感想、コメント

- ・委員会には、結局、県は参画しなかった。市側と確執があったと聞く。県が参加しないことにより、委員会のまとめや結果も骨抜きになりそうだ。
- ・話を聞く限り、この種類の委員会は過去に何度も開催されてきたが、たく

さんの提言が何一つ実現していない。今回もやるだけムダな会合となろう。

- ・カーフリーデーのイベントは一日やっても市民はすぐ忘れる。一年間365日取り組まなければ意味がない。
- ・市民向けフォーラムは、何度やっても毎回参加者が同じ顔ぶれ（当会メンバー含め）である。効果があるのか。
- ・報告を聞く限り委員長が仕方なく務めているなら結果や成果は見えてくる。
- ・委員長に皮肉を言われたようだが、なぜ反論しなかったのか。また、我々の定例会で出た意見やアイデアをなぜ発言しなかったのか。これまでの公共交通や新交通の必要性、利用促進の意見やアイデアをはっきりと発言すべき。心の中で思うだけでは参加する意味がない。できないなら委員を他のメンバーと交替すべき。

（委員会の場合は、重苦しい雰囲気なので発言できなかつた旨、釈明あり）

- ・交通政策課は余計なモノ言わぬイエスマン委員を望んでいる。たとえ委員を交替してもこの委員会では期待はできない。
- ・40年前から同様の委員会や研究会、交通実験が何度も行われ、報告書は何冊も出たが一つも実現していない。
- ・実現どころか公共交通はむしろ後退している。市電廃止後の寺町周辺の路線バスと現在のバスを比較すると明らかに現在の方が、終バス時刻が早く、便数も疎になっている。
- ・寺町だけに限ったことではない。山側、海側方面問わず郊外バスは、年々ダイヤが間引き状態となっている。
- ・平成期になっても路線バス悪化の一途をたどり、バス均一区間は狭くなり、終バス時刻が早く終わり、今までバス通勤していたサラリーマンでも残業があると帰れないので、こぞってマイカーに転換しているのが実情だ。これまでの研究会や委員会の報告書の流れと逆方向となっている。
- ・このような劣悪な公共交通環境となっているが、どうして市民に公共交通を勧めなければいけないのか。嫌がる市民に無理矢理命令で転換させるつもりか。きちんと公共交通を整備した富山や福井と異なり、上から視線の施策の感じがする。
- ・ただ自転車レーンについては、少しずつ改善されているのではないか。三国先生などの努力が実ったとも言える。

（3）他の団体との意見交換会について

- ・同じく委員会に参加していた、学生まちづくりグループと婦人団体の関係者と意見交換会を実施してみてもどうか。

- ・彼らと連名で市に対し意見や宣言を出しても良い。

議題2 新しい交通システムを巡る動向

金沢市議会都市交通特別委員会について 報告者…蓮井氏

・8月28日(月)、大阪産業大学工学部の波床教授が参考人として招致された。専門家の立場から「新しい交通システムに関する提言書」を検証していただいた。疑問点や矛盾点をわかりやすく指摘し解説した。各市議は波床教授の説明に目からウロコが落ちていた模様。「提言書」の問題や課題、新交通システムの意義について、一定の理解ができた模様。

- ・松本交通政策課長が傍聴に来ていた。
- ・先生曰く、日本のBRTは単なる接続バスのことを指しているとのこと。
- ・また、公共交通とクルマの役割分担を明確にすべきと指摘あり。目的別(仕事での利用とプライベートでの利用で分けるなど)で分けるのか。地区別(郊外利用と街中利用で分けるなど)で分けるのか。検討していく必要あり。
- ・本当は金沢でも波床先生のような意欲のある学識経験者に活躍してもらいたいところだ。

次回予定 … 定例会 29年10月5日(木)、19:00～「あいむ」にて